

「島根大学病院の最新治療 2024夏」を開催しました!

総務課 企画調査係

7月7日(日)に、島根大学医学部臨床小講堂にて今年度最初の出雲市民フォーラムを開催しました。今回は、アンケートでご要望が多い「がん」の中から、罹患数上位の乳がん・消化器がんと、新分野の「がんゲノム医療」について、各専門医師が講演しました。

はじめに、乳腺センターの角舎診療教授が、乳がんはこの15年で倍増し日本人女性のがんでは最も多くなっていること、乳がんの種類と薬物療法・手術方法について紹介がありました。早期発見できればほぼ完治できるため、40歳以上の方は定期的に検診を受けるよう啓発がありました。

次に、消化器外科の山本徹講師が、消化器がん(食道・胃・大腸(直腸・結腸))について、初期の段階では自覚症状がほとんどないことから、定期的な検診を呼び掛けました。また、手術支援ロボット(ダヴィンチ)を総合的に導入し、相互チェックが可能となり、より安全な手術が行えているとの話がありました。

最後に、臨床遺伝・ゲノム医療センターの山本寛斉教授が、昨今急速に進展しているがんゲノム医療について、「遺伝子とは」「ゲノムとは」の基本的なところから説明し、がんの遺伝子を元に適応する薬や治療法を調べる「がん遺伝子パネル検査」を専門外来にて積極的に行い、ゆくゆくは県内で治療を完結できる体制を目指したいとの展望を説明しました。

アンケートでは、「がん検診の大切さを知りました」「自分が病気になったときにいろいろな選択肢があることがわかり勉強になった」「島根県でも最新の治療が受けられるとわかった」といった、たくさんのご意見・ご感想をいただきました。

今後も当院の取り組みや最新治療に関する情報を、市民フォーラムなどを通じて広く発信して参ります。



当日の講演テーマ

1. 「乳がんの最新治療～乳房をきれいに残す手術と目覚ましい薬物療法の進歩～」
乳腺センター 診療教授 角舎 学行
2. 「精緻ながん手術への挑戦～ロボット支援消化器がん手術の現在～」
消化器外科 講師 山本 徹
3. 「がんゲノム医療による個別化治療の推進」
臨床遺伝・ゲノム医療センター 教授 山本 寛斉

問合せ先

総務課企画調査係 TEL:0853-88-2531

島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

8月15日～9月15日

対象者: 一般 一般市民 医療 医療関係者 本学 本学教職員・学生

開催日	開催名	場所(★印 学外開催)	対象者	主催者
8/25(日) 13:00~15:00	令和6年度 認知症研修会 認知症サポート医フォローアップ研修	オンライン配信 (Zoom利用)	一般 医療 本学	島根大学医学部附属病院 基幹型認知症疾患医療センター
8/31(土) 13:30~15:30	浜田市民フォーラム ～島根大学病院の最新治療～	★石央文化ホール 小ホール(浜田市)	一般	島根大学医学部附属病院
9/8(日) 13:30~15:30	出雲市民フォーラム ～島根大学病院の最新治療～	島根大学医学部 臨床小講堂	一般	島根大学医学部附属病院
6/1(土)～ 8/31(土)	令和6年度 第1回肝臓病教室・家族支援講座	肝疾患相談・支援センター HP上での動画配信	一般 医療	島根大学医学部附属病院 肝疾患相談・支援センター

詳細については、医学部・附属病院ホームページ【研修会・講演会・セミナー】をご覧ください。



Shimane University Hospital
島大病院ニュース

2024年

8月
Vol.130

NEWS



CONTENTS

表紙: 内科学講座第一 教授 金崎 啓造

中表紙
・肺癌外科治療について
・病院機能評価を受審して
～感染制御部～

裏表紙
・出雲市民フォーラム
「島根大学病院の最新治療 2024夏」を開催しました!
・研修会・講習会・セミナー開催情報

肺癌外科治療について

呼吸器外科 診療科長 **やまね まさおみ**
 呼吸器外科 副診療科長 **やまもと ひろまさ**
 呼吸器外科 医師 **うしけ ひろゆき**
山根 正修
山本 寛斉
氏家 裕征

2024年春より新しい体制で診療を開始しました（診療科長 山根正修、副診療科長 山本寛斉、医師 氏家裕征）。胸腔鏡下手術、Da Vinci システムによるロボット手術をさらに幅広く行っております。

肺癌治療について、当院呼吸器外科では末梢小型非小細胞肺癌に対する積極的縮小手術から、局所進行非小細胞肺癌に対する拡大手術や集学的治療（放射線治療、薬物治療を手術に追加する治療方法）まで行ってきましたが、臨床研究の新しい知見に対応してさらに肺癌治療を発展させています。

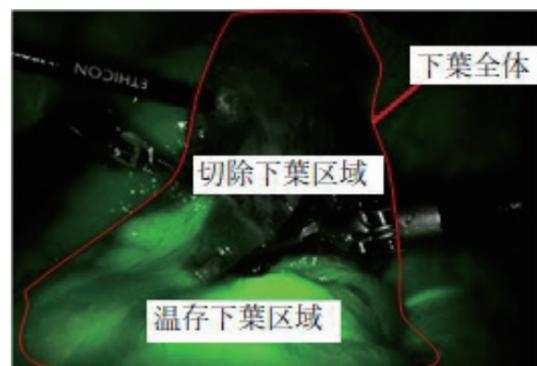
腫瘍細胞におけるEGFRやALK、ROS1などのドライバー遺伝子異常の有無やPD-L1タンパクの発現の程度によって分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬を使い分けるなど薬物療法は近年目覚ましく発展しております。非小細胞肺癌に対する術前導入療法・術後補助療法にも適応が拡大されました。これにより局所進行非小細胞肺癌の周術期治療も大きく変化しており、手術と組み合わせて根治が期待できます。当院では症例に応じてこうした遺伝子異常のタイプやタンパクの発現レベルを確認し呼吸器内科と連携して治療を行っています。

当院では島根県で唯一ロボット手術を行っており、2021年9月の導入以来、80例以上の手術を行ってまいりました。近年の本邦での臨床研究の結果に基づき（左下図）、小さな病変が区域内に収まっていれば、葉切除を回避し呼吸機能に関わず根治切除を目指して区域切除を実施します。肺区域切除ではロボット手術によりDa Vinciのもつ特殊機能である近赤外線モード（Fireflyイメージングシステム）を用いて、インドシアニングリーン（ICG）を注射したのちに切除する区域を同定しています（左図）。また術後疼痛やリンパ節郭清の精度など最近の研究ではロボット手術の有意性が示されています。

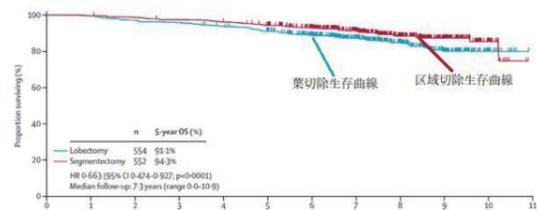
御紹介は毎週水曜日の初診外来（山根）までよろしく申し上げます。遠方の場合など事前の御相談も承っております。下記電話・Emailにてご連絡ください。

問合せ先

呼吸器外科医局 TEL:0853-88-3090
 Email:y.iwano@med.shimane-u.ac.jp



近赤外線モード（Fireflyイメージングシステム）で撮影したロボット手術での左下葉区域切除の様子。下葉全体のうち温存する下葉区域は青く光っており、光っていない肺が切除すべき区域と明確に認識できる。



術後の生存曲線（縦軸：％、横軸：年）では、区域切除群は葉切除群に比較し同等以上の結果を示した（佐治らの報告。Lancet.2022Apr23; 399 (10335) :1607-1617）。



左：山本副診療科長、右：氏家医師

病院機能評価を受審して ～感染制御部から～

感染制御部 看護師長 感染管理認定看護師 **いしとび えみ**
石飛 映美

【院内感染対策の推進を目指して】

5月27日（月）から29日（水）の3日間にわたり、病院機能評価を受審しました。

院内感染対策は、患者さんを守るため、共に働く仲間を守るため、ひいては病院機能を維持していくため、非常に重要な対策です。

感染対策を行う上で、手指衛生は最も重要な方法の1つです。当院は手指衛生の実施率が低く、前回受審時には病院全体で30%前後の実施率であり、この数値は10年前の全国の実施率と同等でした。感染対策への介入を行う上で、まず手指衛生の実施率を上げる事が重要であると考え、前回受審時から活動を強化しました。

2023年度より、新型コロナウイルス感染症発生に伴い中断していた手指衛生直接観察を再開しました。観察するだけでなく手指衛生が必要な場面での直接指導も加えて行った結果、多くの職種で実施率が上昇し、病院全体の手指衛生実施率も約60%となったことは、今回の受審でサーベイヤーから評価頂いたことの1つでした。また、直接観察を継続して行く中で、手指消毒薬の個人携帯を始める職種や、病棟以外の部門から手指消毒薬の設置場所の相談など、病院全体で感染対策への意識が向上していると感じています。

抗菌薬に関しては、院内でのカルバペネム系薬の使用量が減少し、メロベネムの緑膿菌に対する感受性が改善した点について評価を頂きました。一方で周術期抗菌薬について投与量や投与間隔についても具体的に定めた方がよいとの助言を頂き、現在関連部署と連携し、活動を開始しています。

病院全体で取り組む必要のある感染対策は、まだまだ介入点や改善点が多くあります。手指衛生だけでなく、感染経路別予防策や抗菌薬適正使用など感染対策を行う組織風土をつくり、病院に根付かせていくことを目標に、今後も活動を続けていきたいと思っています。





ご報告

最新治療

県内初! 口腔がん・頭頸部がんに対する「光免疫療法(アルミノックス治療)」を島根大学医学部附属病院にて開始します!!

歯科口腔外科 診療科長・教授 かの たかひろ
 管野 貴浩
 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 診療科長・教授 さかもと たつのり
 坂本 達則

当院歯科口腔外科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科において島根県内初となる光免疫療法(アルミノックス治療)が今回2024年8月より新規に導入されます。口腔がん・頭頸部がんは口腔から咽頭、喉頭などを含む鎖骨から上の部分にできる「がん」のことを指します。この口腔がん・頭頸部がんにおける治療は手術、抗がん剤治療、放射線治療に代表される三大治療を組み合わせられて行われることが一般的でしたが、近年では第4の治療法として免疫治療(免疫チェックポイント阻害剤)も普及してきました。そこに新たに登場したのが、第5の治療法「光免疫療法(アルミノックス治療)」です。この光免疫療法は、日本が世界に先駆けて開始した最新の治療法です。

光免疫療法では、まず、口腔や頭頸部のがん細胞に特異的に結合する薬剤(セツキシマブサロタロカンナトリウム:商品名:アキシャルクス®)を点滴投与します。薬剤はがん細胞表面の特定の位置に結合しますが、すぐ隣にある正常な細胞には結合しません。その後、治療する部位にレーザー光を当てると、薬剤が反応し薬剤が結合したがん細胞だけを破壊する画期的治療法です(図1、2)。

光免疫療法の適応は、手術、抗がん剤治療、放射線治療などの標準治療を受けた後に、がんが再発した方に限定されます。本治療法の導入により、患者さんに新たな治療法の選択肢を提供できるようになります。

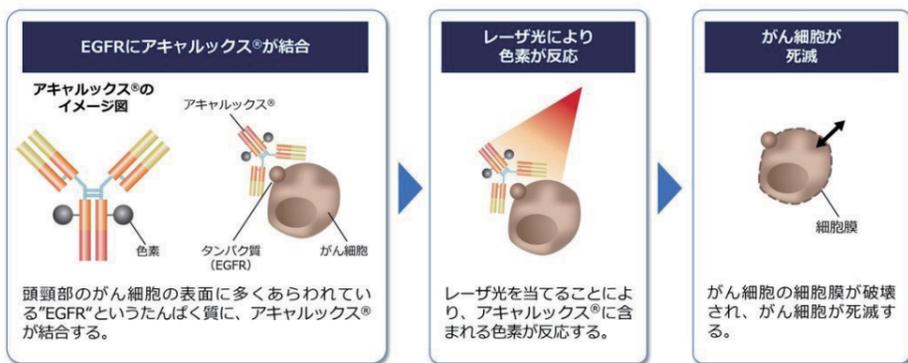
今後、この先進的な治療法を関係各診療科と緊密な連携を図りながら、地域の皆様に安全安心な体制で広く提供できるように尽力して参ります。

図1 治療部位へ光照射をしている様子



提供: 楽天メディカル(株)

図2 アルミノックス治療の手順と仕組み



問合せ先
 歯科口腔外科
 TEL: 0853-20-2301
 担当者名
 まつだ ゆうへい
 医局長 松田 悠平

<模式図>

提供: 楽天メディカル(株)



ご報告

しまね心不全地域連携ネットワークを立ち上げました

循環器内科 医師 たなべ じゅんや
 田邊 淳也
 リハビリテーション部 理学療法士 ふくはら しょう
 福原 翔

心不全急性増悪を起こし入院することで患者さんの身体機能も著しく低下してしまうため、なんとか心不全増悪の前兆を捉え、早期に対処することで再入院を防ぐことが、心不全患者さんの健康寿命の延伸と介護負担の軽減につながると考えられています。しかし心不全再入院の原因は医学的要因だけでなく、塩分過多や過負荷、服薬アドヒアランス不良といった患者側要因が約50%を占めているとされています。そのため、病院での治療だけでなく、退院後の地域連携が重要です。

他県では心不全療養指導士のネットワークなどが立ち上がっており、心不全診療における地域連携の要となっていますが、島根県では各地域の活動はありながらも大きな枠組みでの活動はないのが実情です。そこで、地域連携、横のつながりを築くために、心不全患者に関わる広い職種の方々をつなぐ「しまね心不全地域連携ネットワーク」を立ち上げました(図1)。

心不全患者と心不全診療に関わる皆が、納得感を持って、自分らしく生きることをサポートすることを目的とし、島根県内の心不全診療に関わる多くの方々に届きたいと考えています。現在既に約50名の方にご参加いただいております。6月12日(水)に第1回WEBミーティングを開催しました(図2)。

引き続き活動の幅を広げていながら、地域貢献できるように取り組んで参ります。

問合せ先 循環器内科 医局 TEL: 0853-20-2249

図1 ネットワークの紹介

しまね心不全地域連携ネットワーク

- ・目的
心不全患者と心不全診療に関わる皆が納得感を持って、自分らしく生きることをサポートする
- ・活動地域
島根県内
- ・構成職種
医師(アドバイザー)、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師、社会福祉士、医療介護福祉士
他心不全診療に関わるスタッフ、心不全診療を学びたいスタッフ

図2 第1回WEBミーティングの様子



※画面出しOKの方のみ載せています

図3 しまね心不全地域連携ネットワーク参加フォーム用二次元バーコード



お問い合わせは代表世話人の福原までお願いします!
 メールアドレス: strangechameleon824@gmail.com





ご報告



ご報告



第9回 国立大学附属病院医療安全管理協議会 中国・四国地区会議を開催しました

医療安全管理部 教授 ふかみ たつや
深見 達弥

6月28日(金)に当院を会場として、第9回国立大学附属病院医療安全管理協議会中国・四国地区会議を開催しました。

この会議は、中国・四国地区の国立大学附属病院の医療安全管理責任者と専任リスクマネジャー (GRM)、臨床工学技士等が一堂に会し、各大学における医療安全対策を共有し、さらなる構築と発展を目指すことを目的として毎年開催されているもので、昨年度から中国・四国地方唯一の私立医科大学である川崎医科大学医学部附属病院の方々にもオブザーバーとして参加いただいています。

今年度は、「生体モニタと安全管理」、「ダブルチェック」をテーマに討議を行いました。

基調講演として、「心電図モニタの安全管理に向けた取り組み～さいたま市民 MACT 12年間の軌跡～」と題し、さいたま市民医療センター看護部の富田晴樹師長から、同院の MACT (Monitor Alarm Control Team) 発足の経緯や、これまでの取り組みについてお話いただきました。“心電図の電極を正しく装着して偽アラームを減らす”という基本的なことを院内で共有してスタッフの意識改革の実践・継続を行い、MACTの活動の場を拡大してこられたことは各大学の医療安全に携わる参加者にとって非常に興味深い内容でした。

また、香川大学及び川崎医科大学の臨床工学技士の方からも各施設の取り組みをご紹介いただき、パネルディスカッションを行ったほか、各職種間でも有意義な討議がなされました。

この会議を通して、病院全体で統一した基準を策定して運用することが医療安全につながることを再認識し、今後も大学病院間で情報共有をしながら、医療安全を守っていけるよう取り組んでまいります。



基調講演 (富田晴樹氏)



各大学の看護師GRMのみなさん

問合せ先 医療サービス課
医療安全支援担当
TEL : 0853-20-2066



新規肥満症治療薬の適正使用について

内分泌代謝内科 学内講師 のつ まさかず
野津 雅和

内分泌代謝内科は県内で唯一、新規「肥満症治療薬」の処方可能な施設に認定されています(2024年7月時点)。この度使用可能になった肥満症治療薬は、「高血圧、脂質異常症、2型糖尿病のうちいずれかを有し、食事療法・運動療法を行っても十分な効果が得られず、以下の2つの条件のいずれかに該当する場合」に使用可能です。

条件① BMIが27 kg/m²以上であり、2つ以上の肥満に関連する健康障害(表)を有する

条件② BMIが35 kg/m²以上

新規肥満症治療薬は週1回の自己注射製剤であり、臨床試験では約1年6か月の投与でおよそ15%の体重減少を認めると報告されています(減量効果には個人差があります)。

肥満症の原因は様々で、過食や活動量の不足が原因とは限りません。特定の遺伝的背景(体質)によるもの、何らかのホルモン分泌の乱れ(内分泌代謝疾患)、他疾患を治療するための薬剤などが体重増加の原因になっている方も少なからずおられます。

内分泌代謝内科では、肥満の原因および関連する健康障害の状況を確認し、その方にとって最適な治療について相談します。肥満症の原因がはっきりしない方や体重調整に難渋され大変お困りになっている患者さんは多くいらっしゃいます。ぜひ新規治療薬の適応の有無に関わらずご紹介ください。肥満の原因や生活環境に応じ、食事・運動療法の再確認、肥満症治療薬、減量・代謝改善手術などについて相談いたします。

表

肥満に関連する健康障害

- 1) 耐糖能障害(2型糖尿病、耐糖能異常など)
- 2) 脂質異常症
- 3) 高血圧
- 4) 高尿酸血症・痛風
- 5) 冠動脈疾患: 心筋梗塞・狭心症
- 6) 脳梗塞・脳血栓症・一過性脳虚血発作(TIA)
- 7) 非アルコール性脂肪性肝疾患(NAFLD)
- 8) 月経異常・不妊
- 9) 閉塞性睡眠時無呼吸症候群(OSAS)・肥満低換気症候群
- 10) 運動器疾患: 変形性関節症(膝・股関節)・変形性脊椎症, 手指の変形性関節症
- 11) 肥満関連腎臓病

問合せ先 内分泌代謝内科 医局 TEL : 0853-20-2183





ご報告

島根県初!

神経内分泌腫瘍に対する新しいアイソトープ治療を開始しました (ルテチウム-177治療)

放射線治療科 診療科長 たまき ゆきひさ
玉置 幸久

アイソトープ治療とは、放射線同位元素を体内のがん細胞に選択的に取り込ませ、そこで放射線を放出することでがん病変を治療する放射線治療技術です。

現在当院ではヨード-131、イットリウム-90、ラジウム-223を用いたアイソトープ治療を行っておりますが、このたび新たにルテチウム-177治療を開始しました。

ルテチウム-177はソマトスタチン受容体陽性の神経内分泌腫瘍に対して適応があり、腫瘍細胞のソマトスタチン受容体に結合する性質を持ったペプチドにルテチウム-177が結合した放射線医薬品です。

ルテチウム-177投与後は一定時間患者様の身体から放射線が出ますので、放射線治療病室で治療が行われます。図1はルテチウム-177投与中の様子です。腎臓への放射線被ばくを低減するために、ルテチウム-177の投与の前後に十分な輸液を行います。



図1 ルテチウム-177治療中の様子

翌日に患者様の線量を測定し、基準範囲内であれば放射線治療病室を退出することができます。退室後に撮影されたシンチグラフィでは腫瘍にルテチウム-177がしっかりと取り込まれていることがわかります(図2)。

当科では、治療の導入に際して事前の勉強会や関係診療科との調整会議を行ってまいりました。また病棟看護師や放射線技師と合同でのコールドランなどを行い入念に準備を重ねてまいりました。

神経内分泌腫瘍でルテチウム-177治療の適応がある症例があれば、まずは原疾患の診療科外来にご紹介ください。その後、原疾患の診療科と放射線治療科でカンファレンスを行い、適応の最終判断を行います。

また、ルテチウム-177治療に全般に関するご相談がございましたら、放射線治療科外来までどうぞお気軽にお問い合わせください。

問合せ先 放射線治療科 TEL: 0853-20-2582

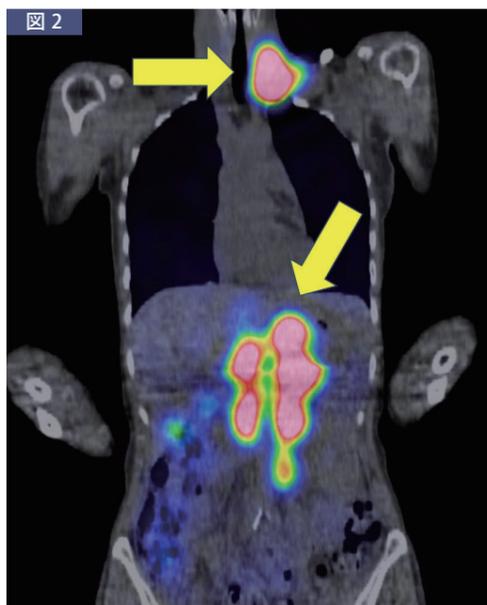


図2 ルテチウム-177投与後のシンチグラフィ
腫瘍にルテチウム-177が強く集積している(矢印)。



ご報告



XRキャッチボールで小児病棟の子どもたちと読売巨人軍の選手が交流をしました

臨床研究センター センター長 おおの さとし
大野 智
小児センター 教授 たけしたに たけし
竹谷 健
病棟保育士 つばき あけみ
樫 敦美
チャイルドライフスペシャリスト くろさき 黒崎 あかね

「巨人軍の選手とオンライン上でキャッチボール」と、提案いただいた時、バーチャルでのキャッチボールが本当に楽しいのかな?と疑問に思っていました。しかし、ソニーの最新技術であるXRキャッチボールの開発経緯や内容を聞いていくうちに、治療中の子どもたちでも参加しやすいと感じました。

入院中の子どもたちは、点滴と繋がっていたり、手術後の痛みがあったり、車いすに乗っていたりして、できていたことができない現実と直面し、心理的・身体的ストレスを抱えています。今回のXRキャッチボールは、野球経験がなくても、手が小さくても楽しめるキャッチボールだったので、どんな子どもでも参加することができました。

キャッチボール当日、沢山の関係者の方に囲まれながら、子どもたちは緊張していましたが、巨人軍の選手(菅野智之投手、赤星優志投手、井上温大投手、山崎伊織投手)が優しく子どもたちとキャッチボールをしてくれました。その後、それぞれの選手との会話と記念写真だけでなく、サインボールのプレゼントもありました。イベント終了後、「サインボールはいつ届くの?」「またやりたい!」「凄くかっこよかった!」と、親子や子ども同士で嬉しそうに話していました。野球や巨人軍について詳しくない子どもたちでしたが、プロ野球選手の優しさや頼もしさにパワーをもらい、キャッチボールを通して治療を頑張る励みになりました。

注釈: XR(クロスリアリティ)・・・現実の物理空間と仮想空間を融合させて、現実では知覚できない新たな体験を創造する技術

問合せ先 小児科 TEL: 0853-20-2616





島大病院ニュース 2024年8月

ご報告

学生避難訓練を実施しました

学務課・学生支援担当

6月25日(火)に医学科2年生を対象に講義の一環として、地震発生時の避難を想定した学生避難訓練を実施しました。

避難に先立ち Acute Care Surgery 講座の渡部広明教授から、災害に対する備えや心構え、災害発生時に取るべき行動など防災についての講義を受け、実際に地震発生のサイレンが鳴ると、学生たちは講義で学んだ通り、まずは頭を守る行動を取りました。その後、速やかに列になって、避難場所である野球場まで避難しました。野球場で点呼を行い全員の安全を確認したところで、無事避難完了です。

講義後の学生のレポートでは、

- ・改めて災害の怖さを実感することができる講義だった。
- ・日頃から情報を集めるなどして、(災害への)意識を高くして生活していきたい。
- ・災害に備えて日頃から準備しておくことが大切だと分かった。

などの記述があり、学生に災害に対する危機管理の意識づけができたと感じています。

近年、全国各地で豪雨や地震発生によって引き起こされる災害が多発しています。日ごろからの備えが大事だと改めて考えさせられる訓練となりました。学生が災害時に速やかに適切な行動が取れるよう今後も避難訓練を実施していきたいと思えます。

問合せ先 学務課・学生支援担当 TEL: 0853-20-2088

訓練前講義



発生直後



避難中



避難完了



島大病院ニュース 2024年8月

ご報告

日本老年看護学会研究論文奨励賞を受賞しました

看護部 副看護師長 うちだ えみこ 内田 絵美子

昨年、令和5年度日本老年看護学会研究論文奨励賞を受賞し、この度高知県で開催された日本老年看護学会第29回学術集会で受賞講演をする機会をいただきました。本研究の論文題目は「終末期高齢がん患者のその人らしさを支える看護実践」で、私が島根大学大学院医学系研究科博士前期課程高齢者看護学コースで提出した修士論文です。

終末期高齢がん患者の病院での療養生活は、老いとがんが複合的に影響することで周囲の影響を受けやすく、自分らしい生活が脅かされやすい状況にあります。本研究を通して、患者が苦しい状態にあっても繰り返している主張や行動、他者へのふるまいなど、終末期高齢がん患者の揺るがない側面に着目しながらとらえたその人らしさを基盤とし、患者が望む生活の実現に向けた調整や長い人生経験をたどったその人の価値観を受け止めながらその人らしい生活を支えている看護実践の有り様を明らかにすることができました。近年、ACP(アドバンス・ケア・プランニング)支援の重要性が指摘されているように、今後も、患者さんが笑顔で自分らしい生活を送れるように実践と研究に取り組みたいと思えます。

また、当院は同一敷地内に大学院があり、個人のキャリアアップを積極的に支援していただける環境であるため働きながら進学することができ、毎年数名の看護師が修士課程に進学しています。臨床での悩みを抱える看護職のみなさん、ぜひ大学院の門戸をたたいてみてください。自己の看護を振り返るよい機会になることをお約束いたします。

問合せ先 NICU・GCU TEL: 0853-20-2607



2024年8月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



2024年8月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





ご報告

島大病院ニュース 2024年8月



うさぎ保育所七夕会

総務課総務係

7月7日(日)は七夕の日。月初めから、笹に短冊や飾りを付けて“願い事が叶いますように”と玄関ホールに飾っています。子ども達が染め紙やにじみ絵をして作った短冊や色紙を三角に折って貼っていった飾り、織姫様と彦星様を作って願い事をそえたり、七夕をイメージして作った花火のひっかき絵をそえたりと様々な飾りができました。また、1歳児の保育室には、切り紙で作った天の川が出現し、子ども達も星や川を指差しながら眺めて喜んでいました。

『たなばたさま』を歌ったり、七夕の紙芝居を見たりしながら笹飾りや空を眺め、思いをはせる子ども達でした。

8日(月)の給食は、お星さまキーマカレー・短冊サラダ・七夕そうめん汁、おやつは天の川ゼリーで、目でも七夕を味わえるメニューでした。

今年も、子ども達の願い事がたくさん叶いますように……。

そして、子ども達が健やかに育ちますように…。

問合せ先 総務課総務係 TEL: 0853-20-2016



2024年8月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063

◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



ご報告

島大病院ニュース 2024年8月

山陰初! がん免疫療法製剤「イエスカルタ」が 取扱可能となりました

血液内科 診療科長 鈴木 律朗
すずき りつろう

当院では、がんの免疫療法として有効な「CAR-T細胞療法」に使用する製剤について、これまで使用可能であった「キムリア」に加えて、より効果の高い「イエスカルタ」の使用施設認定を2024年6月に取得しました。イエスカルタの認定施設は山陰では初となります。

CAR-T細胞療法(キメラ抗原受容体改変T細胞療法)とは、難治性がんの治療法として開発された免疫療法で、リンパ球の一つであるT細胞に遺伝子導入を行い、腫瘍を攻撃させる画期的な治療法です。この治療を実施できるのは国内で認定された施設のみですが、当院では2021年よりキムリアの使用を開始し、続いてこの度イエスカルタの使用認定も取得しました。

キムリア・イエスカルタは、ともにCD19抗体の遺伝子を導入したCAR-T細胞療法製剤です(図1)。CD19抗体は、B細胞リンパ腫やB細胞性の急性リンパ性白血病に発現するCD19抗原を認識する抗体で、これを介してCAR-T細胞がリンパ腫細胞・白血病細胞に結合して抗腫瘍効果を発揮します。抗がん剤や分子標的薬とは作用メカニズムが異なるため、これらの薬剤に耐性になった腫瘍細胞にも効果が期待できます。

イエスカルタは、欧米でも使用されている世界基準の細胞治療製剤で、キムリアより強い細胞刺激効果があるとされています。適応疾患がキムリアと異なるほか(図2)、共通の適応疾患であるびまん性大細胞型B細胞リンパ腫では、キムリアが三次治療以降でしか使用できないのに対し、イエスカルタは二次治療以降で使用可能なため、治療の恩恵を受ける患者さんがより多くなることが考えられます。一方で、CAR-T細胞療法の副作用であるサイトカイン放出症候群や免疫細胞関連神経毒性症候群はイエスカルタの方が強いとされるため、集中治療科をはじめとする院内全体との協力体制の下で、合併症対策にしっかり取り組んでいきます。

問合せ先 血液内科 TEL: 0853-20-2631

図1 CAR-T細胞の違い

CAR-T細胞の違い		
CAR-T細胞 商品名	Tisa-cel キムリア® (2019-4承認) 国内48施設	Axi-cel イエスカルタ® (2021-1承認) 国内40施設
2024-6現在承認		
CD19抗体部分	FMC63	FMC63
細胞膜貫通部位	CD8a	CD28
シグナル部位2	4-1BB	CD28
シグナル部位1	CD3ε	CD3ε
遺伝子導入	レンチウイルス	レトロウイルス

Nat Rev Drug Discov. 2015; 14: 499-509. を改変

図2 適応疾患の違い

CAR-T細胞療法の適応疾患	
Tisa-cel キムリア®	Axi-cel イエスカルタ®
急性リンパ芽球性白血病	びまん性大細胞型B細胞リンパ腫* (二次治療以降)
びまん性大細胞型B細胞リンパ腫 (三次治療以降)	
濾胞性リンパ腫(三次治療以降)	

* 縦隔原発大細胞型、形質転換濾胞性、高悪性度を含む。



2024年8月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063

◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





患者さんを中心とした医療の展開 ～手術部の取り組み～

手術部長 にかい てつろう
二階 哲朗

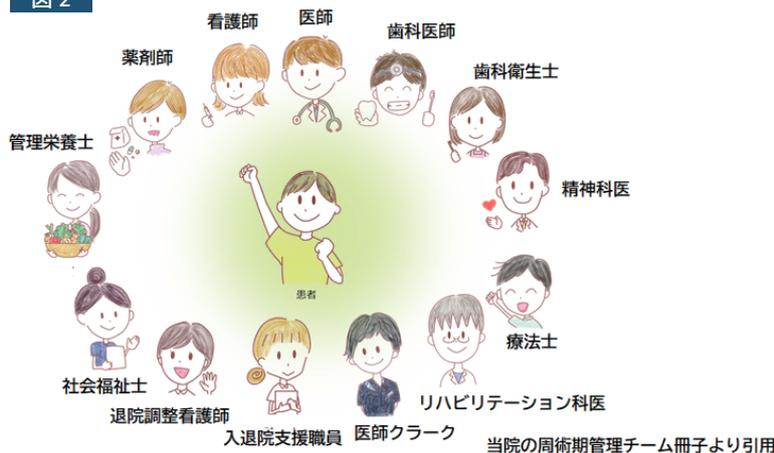
地域の皆様の信頼に応えるべく、「安全・安心な手術」をモットーに、取り組みを続けてきました。2014年には管理栄養士、理学療法士、薬剤師、ソーシャルワーカーなど様々な職種からなる周術期管理チームを立ち上げ、大きな手術を受ける方を対象にサポートを開始しました。手術後の合併症の軽減や回復促進を目指し、手術の前から栄養や体力のサポートを行っています。チームの活動は多岐にわたり、手術の前から栄養状態とフレイル（体力、生活力など）の確認及び改善のためのアドバイス、レハビリテーション、口腔ケア、せん妄予防対策、禁煙指導などを行う活動を多職種で協力しています（図1）。2021年からは手術支援チームを立ち上げ、複数の診療科の連携が必要な難易度の高い手術に備える体制を整えました。いずれのチームも手術支援センターに所属しています。また、入退院管理センターと周術期管理チームとの連携にも注力しています。現在の生活環境をお伺いし、手術後も安心して退院し生活できるよう、必要な支援を検討してまいります。患者さん・ご家族の皆さまが安心して手術に臨めるよう医療スタッフ全員で患者さんを中心とした医療を展開していく所存です（図2）。

図1

周術期管理チームの主な役割

- | | |
|----------------|-------------------|
| 1. 全身状態の把握 | 7. 周術期口腔ケア |
| 2. 周術期のリスク説明 | 8. 周術期薬剤管理 |
| 3. 手術意思決定支援 | 9. せん妄予防対策 |
| 4. 手術オリエンテーション | 10. 禁煙指導 |
| 5. 術前栄養指導 | 11. 術後疼痛管理 |
| 6. プレハビリテーション | 12. 入退院管理センターとの連携 |

図2



問合せ先 麻酔科 医局 TEL : 0853-20-2295

